

大分市国道197号・昭和通り再整備事業のデザインプロセスと効果に関する考察

福岡大学大学院工学研究科建設工学専攻
福岡大学工学部社会デザイン工学科
福岡大学大学院工学研究科建設工学専攻

学生会員
学生会員
学生会員

○吉田奈緒子
重吉将伍
正会員 柴田久, 池田隆太郎
諫山裕生

1 はじめに

西村によれば、戦後大分の骨格は戦災復興土地区画整理によって整い、東西に走る国道 197 号、現在の昭和通りと南北の中央通りとの交差点(以下、昭和通り交差点)に「中央広場」を設ける構想が復興計画の目玉とされていた¹⁾。そのため全国でも珍しい交差点四隅の小空間が形成されたが、鬱蒼とした植栽の乱立等により当該空間の使いにくさが近年まで問題視されていた。さらに昭和通りにおいても歩道の舗装や街灯等の不統一、歩道橋・横断防止柵の劣化等の問題点が指摘されていた。これを受け大分県は、平成 27 年度より昭和通り再整備事業(以下、本事業)に着手し、整備方針や通行区分、意匠等に関する提言を目的とした「リボーン 197 協議会(以下、協議会)」の発足を経て、平成 30 年までに昭和通り交差点四隅の広場化と交差点より西側区間の改修を終えている。

本研究では、昭和通り再整備事業のデザインプロセスを詳述したうえで、整備前後の昭和通りならびに上記交差点四隅の広場(以下、四隅広場)に対する利用実態・意識調査を行い、本事業の特徴と効果について考察する。

2. 昭和通り再整備事業の概要

本事業の対象区間は国道 197 号「昭和通り」の舞鶴橋西交差点～中春日交差点の 2.1km である。協議会の事務局は大分県庁で、委員は沿道企業の代表者や有識者等 23 名で構成された。また上記事務局には大分市役所も参加し、整備に向けた情報共有、協議に向けた協力体制がとられた。

3. 本事業における検討経緯およびデザインの特徴

(1) 本事業における検討プロセスの概要

4 年間の検討経緯を表-1 に示す。平成 27 年度から平成 28 年度までに協議会で整備方針として「大分の街並みを引き立て、落ち着き・品格のある昭和通り」が固められ、設計案が検討された。平成 29 年度より実証実験・模型検討等を重ね、関係者が連携しながら、デザイン案を細部まで図面化する調整がなされた。同年 10 月より施工が開始、現場視察や工程調整会議も複数行われ、平成 30 年 7 月に四隅広場の完成、記念式典が開催された。

(2) 昭和通りのデザインの特徴

対象区間の歩道は平板ブロック舗装、新たに導入された自転車道は脱色アスファルト舗装とされた。平板ブロックの表層は大分県立美術館前の既存ブロックに合わせ、振動やヒール靴を考慮しながらスリットを入れるなど、通りの連続性と快適性が重視された。

城址公園大手門西側のクロマツ区間は他の区間より1車線多く、バス右折専用レーンが設置されているため歩道が狭くなっていた。本区間は幹が著しく傾いたクロマツがあることで有名で、歩行者が円滑に通れる十分な幅員、高さが確保されていない状況にあった。これに対し、文献調査によるクロマツの歴史的価値²⁾の再認識ならびに協議会における「城址の石垣との調和が良い」との意見から、バス右折専用レーンをなくすことで歩道を拡張し、本区間のクロマツを出来る限り保存する案が採用された。一方で、傾いたクロマツについては最も古くから本区間に存在していたことが確認され³⁾、

表-1 本事業の検討プロセス

	日付・項目	内容	成果
平成27年度	6/30 第1回協議会	協議会について 国道197号の現状把握	リボーン197協議会の発足/今後のスケジュールの確認
	8/27 第2回協議会	国道197号の問題点 利用実態調査	現地踏査/歩道橋の利用率の把握と撤去の検討/クロマツ区間の横断構成把握
	10/22 第3回協議会	現地踏査からみた課題の整理 整備イメージ方向性について	歩道、植栽、照明、横断防止柵、歩道橋、クロマツ区間、四隅広場について課題の把握/整備イメージは統一感、落ち着きや品格、日常的な利用のしやすさを意識したイメージを検討
	2/2 第4回協議会	リボーン197協議会の提言内容について	道路景観整備テーマは「大分の街並みを引き立て、落ち着き・品格のある昭和通り」
	3/22 第5回協議会	道路の横断構成 クロマツ区間について	一般部とクロマツ区間の横断構成について今後継続して検討
平成28年度	4/14 打ち合わせ①	28年度の主な流れ	今年度は主にクロマツ区間と四隅広場について検討
	5/12 現地踏査 ヒアリング	既存道路の現状把握 周辺施設へのヒアリング	対象区間の課題把握/大分銀行に広場活用についてのヒアリング
	7/1 打ち合わせ②	傾いたクロマツについて 舗装材について	傾いたクロマツは撤去後に再利用か移植の方で提案/今後は舗装材についても検討
	7/28 第6回協議会	クロマツ区間の車線減少案と 植栽のあり方について	車線減少案が決定/クロマツ区間の植栽は今後もクロマツで継続/傾いたクロマツは撤去しベンチなどで再利用
	9/2 打ち合わせ③	舗装材等の検討	舗装材は30×30の平板ブロックで歩きやすさを考慮し溝の深さやパターンを検討/点字ブロックも同じ大きさ/横断防止柵はつけない方向で検討/街灯は明度・金額で検討/車道境界はなし
	10/25 第7回協議会	クロマツのあり方について 四隅広場の模型検討	パブリックコメントや投書で検討後クロマツは大分城址公園内に移植/四隅広場デザインについて意見集約
	11/14 提言書の手交式	大分県知事へ提言書の手交	協議会委員より知事へ基本設計最終提言について説明を行い今後の実施設計へ
	11/21 定例記者会見	リボーン197について記者会見	当日のテレビニュース、翌日の新聞に事業の開始が報道され県民に周知
	12/7 打ち合わせ④	今後のスケジュール確認 四隅広場デザイン検討 占用物件について	北西広場に街灯を設置する/北東広場のステージに再生木材を使用/北東広場スロープの勾配再検討/青なしのベンチは石製/広場内の新植の種類を継続検討/占用物件の移設位置を継続検討
	2/7 打ち合わせ⑤	四隅広場基本設計の修正、変更 歩道部基本設計	新植継続検討/北東広場デザイン変更/平板ブロック舗装パターン決定
平成29年度	4/13 回結式 合同打ち合わせ	スケジュール説明 各委託業務の進捗状況説明	占用物の移設、撤去等について今後継続検討/一般部の横断防止柵、演出照明、車止めの選定
	5/12 打ち合わせ①	電気設備について 工事検討状況について ロングベンチ実証実験について	北西広場の緑台中央へ1本ポールライトを設置/彫刻「レオタードの女」芝へ埋め込み現在と同じ高さ/ロングベンチの彫影石の種類を仮決定
	5/25 打ち合わせ②	四隅広場の詳細検討 ロングベンチ実証実験について	脱色アスファルトは骨材で色を出す/南東エリアの樹木を本で提案/北西エリアの照明を仮決定
	5/31 打ち合わせ③	一般部電気機器、植栽等の配置検討 交差点改修箇所について 城址公園前の転落防止柵について 歩道の横断・縦断等の構造について	一般部の電気機器等継続検討/改修する交差点の点字ブロックは四隅広場と同様に/歩道の詳細構造決定
	6/7 打ち合わせ④	県保全課からの報告・確認 四隅広場各エリアの整理・検討	各広場、ベンチや階段の材質決定/南東広場の新植継続検討/一般部脱色アスファルトの砂利配合継続検討
	6/20 打ち合わせ⑤	課題整理と模型検討	四角ベンチの設え決定/新植の配置方針決定/現状の課題整理
	6/23 ベンチ実証実験 打ち合わせ⑥	ロングベンチの材質、照明検討 一般部の照明、植樹樹等の検討 クロマツ区間の演出照明について 城址公園前の転落防止柵について 四隅広場の詳細検討(舗装、彫刻等)	ロングベンチの材質、照明決定/照明の決定/植樹樹の材質を継続検討/クロマツ区間の演出照明継続検討/一般部車止めは特に出入りの多い箇所のみ/四隅広場彫刻「レオタードの女」移設位置変更
	7/13 合同打ち合わせ	スケジュール説明 進捗状況説明	「リボーン197協議会」メンバー全体での共有/クロマツ移植に際する検討の報告
	10/27 合同打ち合わせ	施工会社とのデザイン共有	模型を用いた詳細なデザイン共有
	5/11 工事進捗状況報告 現場視察	スケジュール説明 進捗状況・予定報告 現場視察	デザインの注意事項共有/今後のスケジュールの確認
平成30年度	6/4 四隅広場現場視察会	デザイン監修者より協議会メンバーへ説明 現地視察	「リボーン197協議会」メンバーへの内覧
	7/10 打ち合わせ (大分県)	完成記念式典について	式典の実施場所、内容の決定/当日展示するパネルの内容検討/航空写真の撮影方法の検討
	7/25 昭和通り交差点広場 完成記念式典	広場の完成記念式典 (テープカット、あいさつ、パルンリリース等)	広場としてオープン/利用者を多少確認
	9/21 工程調整会議	第2工区の工程について 現場視察	工事スケジュールの共有/施工注意点の把握

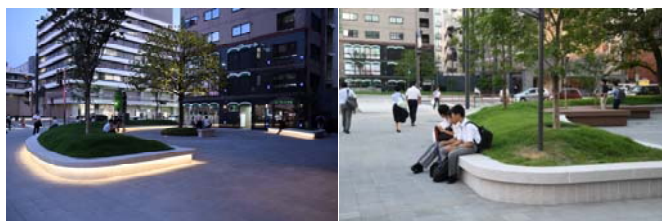


写真-1 四隅広場

写真-2 談笑する学生

市民意見の後押しもあったことから、城址公園への移植とクロマツ区間の延長が設計案として結実した。

四隅広場については、共通して曲線形状のロングベンチが配置され、座面下部に LED 照明が取り付けられるなど、四隅全体の統一感と景観性の向上が図られている。さらに各エリア毎に、周辺との関係性や想定される利用を考慮したコンセプトがたてられ、誘引・滞留効果をもたらす舗装パターンや見通しを配慮した空間的工夫等が施されている【写真-1】。

4. 昭和通りにおける利用実態調査

まず非日常時における昭和通り交差点の利用実態を把握するため、大分市内でのイベント(七夕祭り・ゆめいろ音楽祭)で現地調査を行った。その結果、本部席の設置やベンチに座ってイベントを眺める等、非日常の場において四隅広場が有効に活用されていることが把握された。

次に日常時の昭和通りにおける動線・利用行動を現地にて観測し、あわせて周辺でのヒアリング調査を実施した。その結果、整備前の昭和通り交差点では広場内への侵入はほとんど見受けられず、交差点の主な利用行動は「信号待ち」という結果が顕著に把握された。これに対し整備後は広場内での「談笑」「電話」「スマートフォンを扱う」などの姿が多く確認された【図-1】。「化粧直し」や「軽食をとる」といった新たな滞留行動もみられ、散歩やランニング等広場内部を斜めに通り抜ける動線も増加していた。ヒアリング結果からは整備前の印象として「鬱蒼としていた」「暗い」等が 113 件(41.0%)、整備後では「綺麗になった」「明るい」等が 231 件(38.4%)を占めていた。その他「銅像が目立つようになった」「空がよく見えて息がしやすい」「隣接するビル壁が汚い」といった意見も得られた。年代別では「学校帰りに利用

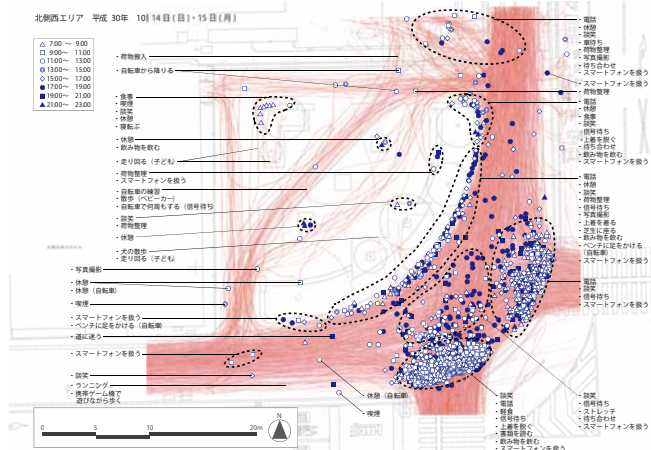


図-1 平成 30 年度動線調査結果 (北側西エリア)

する」という学生【写真-2】や「腰を掛けるスペースができて良い」という年配者からの意見が多く得られた。一方、通りに対する整備前の印象は「通りにくい」「汚い」等の意見が 49 件(25.0%)、整備後では「通りやすい」「広くなった」が 195 件(50.0%)を占めた。クロマツ区間については整備前は「危険だった」「通りにくかった」が 57 件(25.2%)に加え「頭をぶつけたことがある」という回答も得られたが、クロマツの移植・歩道拡幅により「広くなった」「安全になった」等の意見が 97 件(34.5%)抽出された。

5. 本事業の特徴と効果について

(1) 再整備された歩道と四隅広場に対する成果

本事業の特徴として a)協議会の場を介した関係組織間の調整によって歴史あるクロマツ区間を保全し、車歩道を広げる街路整備の達成がなされたこと、b)戦災復興計画の目玉であった全国的にも珍しい交差点四隅を一度に広場化し、周辺との関係性を踏まえた新たな利用可能性を促すデザインに結実したことが挙げられる。また動線調査結果より、整備前は人の侵入がほぼなかった四隅広場において多様な滞留行動がみられ、ヒアリング調査では再整備後の四隅広場・通り・クロマツ区間において「歩きやすい」「安全になった」などの意見も得られている。これより本事業における歩道の再整備と四隅広場が一定の評価を得られていると考えられよう。

(2) 再整備事業における積極的な関係性構築の重要性

目抜き通りである昭和通りの再整備事業では沿道企業との連携が必須であったといえる。一方で、公共空間整備の現場において関係組織間での協議が難航あるいは衝突するケースが多い。本事業では協議会の体制として沿道企業の代表者らに加え事業の中で関与してくることが想定される組織を委員として招いたこと、協議会の場を介し調整を重ねたことで関係組織間における横のつながりが図られ、クロマツ区間の傾いたクロマツを城址公園内へ移植等に対する理解が促された。すなわち関係組織の積極的な繋がりを構築することは、事業の円滑化だけでなく、デザインの質的向上に寄与する作業として重要といえよう。

(3) 滞留可能な交差点がもたらす市街地景観への関心喚起

ヒアリング調査の結果から四隅広場の再整備が木々に埋もれていた銅像や隣接ビルの壁の汚れなど、これまで気付かなかった市街地の景観に対して目を向けさせる契機となっている側面が把握された。すなわち「都市の顔」となりうる目抜き通りの交差点が単なる通過の空間から、街並みを引き立て、快適に滞留できる空間へと再生されることは、自らが暮らす街への関心と愛着の喚起にもつながる可能性が示唆できよう。

【参考文献】1) 西村幸夫：県都物語—47 都心空間の近代をあるく、pp.13-15, pp.306-311 株式会社有斐閣、2018 2) 大分市：大分市史 下、pp.178-179, p.1218, 1988 3) 大分歴史資料館：豊後府内城第 14 回特別展「城のある風景」図録、p.38, 1995